◆交流学習事業

漁協運営について

安　井　理　奈

平成15年２月17日、伊平屋漁協組合長、沖縄県信用漁連会長の西銘仁正氏を講師にお迎えして、漁協運営をテーマに講演会を行ったので、その概要について報告する。

◉開催日の選定

八重山では、旧暦１月16日に十六日祭を行う習慣があり、翌日である旧の１月17日には漁を休む漁業者が多いとの情報を得て、開催日を旧の１月17日（新暦では２月17日）とした。最近ではソデイカ漁やモズク養殖の忙しい時期でもあり、また時化が続いた後などは出漁する人も多いとのことだったが、平日行うよりは、人が集まりやすかったのではないかと思う。

◉講演会場の選定

八重山支庁の大会議室、市民会館のホール等を利用することも検討したが、「あまり行きつけない場所を設定すると漁業者が来たがらないのでは。」との漁協職員からの意見もあり、少し狭いではあったが、漁協の会議室で行うことにした。結果的には写真のとおり会場が丁度いっぱいになる程度に人が集まり、会場の選定は成功であった。

◉漁業者等への宣伝活動

あまり早くから宣伝を行うと当日には忘れられるのではないかと考え、講演の10日前程度から、漁協施設、漁港周辺へのポスター掲示と漁業者への手渡しを行った他、漁協各部会の正・副会長には電話連絡を行った。その他婦人部の定例会でもポスターを配布した。また、漁協の理事は参加するように、漁協の理事会でも呼びかけてもらった。

◉講演前の注意点

今回は注意しそびれたが、講演が始まる前に携帯電話は切るよう呼びかけるべきであった。漁業者はかなり着信音が大きく、声も大きい。

◉まとめ

どの程度の人数が集まるかと心配したが、結局50名あまりの参加者があり講演会は大成功であった。

講演は漁協経営から伊平屋島で行われている観光漁業「海の学校」の裏話まで多岐にわたり、聴衆を退屈させない楽しい内容であった。

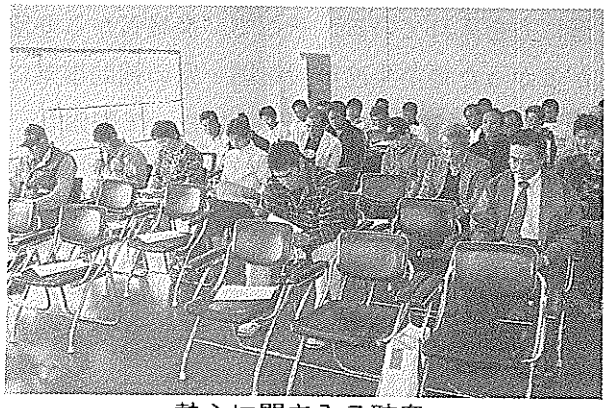
その中から、筆者の印象に残った言葉をいくつか紹介したい。

- 漁協のやっていることは世間の先を行っている。男女参画、地方分権など
- 自分でできることを漁協にさせれば、人件費がかかる。
  「まずは自分でやる。」
  「だめなら仲間でやる。」
  「それでもだめなら漁協でやる。」
- 漁協の施設も我が家のように大事に使おう。
- 給料はもらうものではない。稼いでとるもの
- 漁協は組合員が信頼して頂けてくれた魚を１円でも２円でも高く売らないと。
- 離島を活かす知恵を絞る→八重山ブランドの確立。衛生管理、健康管理、漁場管理など。

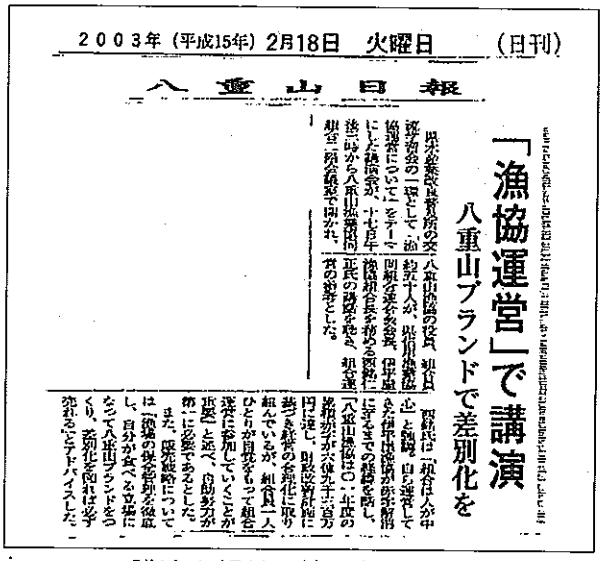
講演を聴いて、漁協再建に向けて発奮した理事あり、観光漁業を行うと「おまえは海人じゃない」などと周囲から批判されていたが講演を聴いて勇気づけられたとの意見あり、感動した

との電子メールも支庁に届き、“何か”を得て

大盛況の講演会



熱心に聞き入る聴衆



2003年（平成15年）2月18日　火曜日　（日刊）

八重山日報

「漁協運営」で講演

八重山ブランドで差別化を

県水産業改良普及所の交、八重山漁協の役員、組合員約十人が、県信用漁業協同組合連合会会長、伊平屋島漁協組合長を務める新垣[illegible]氏の講演を聞き、漁協運営について、をテーマに意見交換が、十七日午後、同漁協事務所で開かれた。

県水産業改良普及所の交、八重山漁協の役員、組合員約十人が、県信用漁業協同組合連合会会長、伊平屋島漁協組合長を務める新垣[illegible]氏の講演を聞き、漁協運営について、をテーマにと意見交換が、十七日午後、同漁協事務所で開かれた。

講演を報じる地元新聞記事

講演する西銘氏

少人数ながら盛り上がる懇親会

いった人が少なからずいたことと思う。